

赤十字NEWS

April 2013 Vol.875
http://www.jrc.or.jp

4



日本赤十字社

赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。



「救急法の大切さを知ってほしい」

「たくさんの人に赤十字の講習を受けていただき、みんなが人のいのちを助けられるような環境になるといいですね」(AKB48の小嶋菜月さん)——日本赤十字社は救急法の大切さを多くの人に知ってもらおうと、「いのちを救え! 赤十字BLS(一次救命処置)全国大会」(3月5日、東京)を初めて開催。全国11都府県の代表チーム(2人一組、合計22人)が救命技術を競い合いました。応援に駆けつけた日本赤十字社オフィシャルメッセンジャーのAKB48メンバーは、心肺蘇生に真剣な表情で取り組む各チームの姿に感動した様子。いざというときに人のいのちを救うためには、救急法講習の受講や周りの人との協力が大切なことを知り、「ぜひ同じ世代の人たちに伝えていきたい」と互いに誓い合いました。

© Hidetake Oohata

「AEDの使い方を知ってください」と呼びかけるAKB48メンバー。手前右から大場美奈さん、藤江れいなさん、奥右から小嶋菜月さん、中村麻里子さん

CONTENTS

TOPICS 2

- 初の赤十字BLS全国大会 AKB48が応援
- 赤十字広報大使 藤原紀香さん 千葉県の中学校で特別講師
- 常任理事会開催報告
- 理事会開催報告
- 第81回代議員会審議結果公告

TOPICS 3

- 平成25年度実施事業 皆さまからお寄せいただいた活動資金は このように役立てます

SPECIAL 4 | 5

- 東日本大震災 被災地復興支援事業 被災者とともに 復興・生活再建へ 一歩ずつ

AREA NEWS 6 | 7

- 千葉・愛媛・徳島・大阪・佐賀・福岡・沖縄・大分・秋田・兵庫・茨城・広島
- スポーツとコラボ
- 心からの寄付に感謝!
- プレゼント

WORLD 8

- 台湾赤十字組織 園児たちに音楽のプレゼント
- 臨床心理技術者の会 IFRC心理社会的支援センター所長講演
- 知っておきたい! 国際人道法

クローズアップひと



タレント・歌手
中川翔子さん

みんなヒーローになろうぜ!

「この血が誰かのパワーになっていくと思うと、すごくハッピーな気持ちになれますね」。しょこたんの愛称で知られる中川翔子さん。3月28日に開催された「東京都赤十字血液センター presents 中川翔子 SPECIAL LIVE!」に先立ち、人生初の献血に挑戦しました。

訪れたのは東京・秋葉原の献血ルーム akiba:F。漫画の単行本がずらりそろえられた待合室が特色のルームです。「読みたかった漫画もありました。献血中に漫画を読めるなんてうれしい。“痛そうだし、大変かも”という献

血のイメージもありましたが、全然違いました。また寄っちゃいそうです」と瞳を輝かせてくれました。

特撮戦隊物などの熱烈なファンとしても有名なしょこたん。採血中もヒーローの存在が頭をよぎったといいます。「人のために活躍するなんてファンタジー。私にはできないと思っていました。でも、献血を通じてなら私もヒーローになれるんですね。若い人の献血者が減ってるそうですが、「献血で誰もがヒーローになれる」って、みんなに教えてあげたいです」

PROFILE

1985年東京都生まれ。2001年に「ポポロガールオーディション」でグランプリを獲得し、デビュー。タレント、歌手、女優など多彩な分野で活躍中。漫画とイラストもプロ並みの腕前。自身のブログ『しょこたん♡ぶろぐ』は芸能人を代表する人気ブログ。猛烈な勢いで更新されることで有名で、過去には1日231回更新の記録も。



「意外に力が必要ですね」と、初めて胸骨圧迫に取り組むAKB48のメンバー

初の赤十字BLS全国大会 オフィシャルメッセンジャー AKB48が応援

※BLSはBasic Life Support(一次救命処置)の略称。急に心肺停止などに陥った人に市民が行う救命手当のことで、胸骨圧迫や人工呼吸、AEDによる除細動を行います。

救命法の大切さをより多くの人に知ってほしい。日本赤十字社は3月5日、「いのちを救え! 赤十字BLS※(二次救命処置)全国大会」を日本赤十字看護大学(東京・渋谷区)で初開催。各地の救急法競技会などで優秀な成績を収めた11都府県の代表が、日頃鍛えた技術を競い合った。

参加チームは高校生や大学生、社会人、日赤奉仕団員、消防団員など多彩です。中には小学生と母親という埼玉県代表の親子チームも。日本赤十字社オフィシャルメッセンジャーのAKB48のメンバー、大場美奈さん、藤江れいなさん、中村麻里子さん、小嶋菜月さんの4人が応援に駆けつけました。



1~3位に輝いた各代表チームとAKB48の皆さん

化する方式で行われました。2人1組の各チームは練習を重ねた技術とチームワークを活かし、一生懸命に救命処置に取り組みました。

優勝は大府代表 森満・神庭チーム

熱戦を勝ち抜いて優勝したのは、「95%」というハイスコアを打ち出した大府代表の森満健悟さんと神庭崇さん。救急法講習をきっかけに知り合ったという社会人チームです。

森満さんは「何かあったときに少しでも誰かの役に立ちたいと思ったのが、救急法を学んだきっかけ。競技会は技の向上に良い機会です」、神庭さんは「優勝するとは思っていませんでした。人を助けるに

は一步を踏み出す勇気が大切。勇気を持って参加して良かったです」と笑顔で喜びを語りました。

2、3位には、共に高校生チームである大分県、青森県代表が輝きました。競技を間近で応援したAKB48の藤江れいなさんは「入りののちを救うためには周りの人との協力が大切なことを実感しました。多くの人にAED(自動体外式除細動器)の使い方を知ってほしい。大場美奈さんは「AEDはアナウンスに従えば使えることを知りました。でも落ち着いて対応するには、普段から講習を受けることが大事。それを同世代のみんなに伝えるため、オフィシャルメッセンジャーとして頑張っていきたいと思います」と決意を語りました。

昨年は全国4カ所で、メルマガジン登録者を対象に特別設サイトで募った参加者とAKB48のメンバーと一緒に救急法講習を体験しました。日赤はいざというときに役立つ救急法を普及させるため、各都道府県支部が講習会を開催しています。

赤十字広報特使 藤原紀香さん 千葉県の中学校で特別講師 「被災地を思い続けましょう」

赤十字広報特使で女優の藤原紀香さんが2月25日、千葉県内の中学校で開かれた防災学習会や東日本大震災記録写真展などに参加し、6回に及ぶ被災地訪問活動の経験を生徒や県民に伝えました。

紀香さんが訪れたのは印西市立木刈中学校。生徒たちに交じって毛布で防寒用のガウンを作る方法を学ぶとともに、被災地訪問での体験を報告しました。



紀香さんの話を聞いた生徒からは「被災した方の苦しみを知った」「少しでも人の役に立つことをしたい」との感想も

青少年赤十字(JRC)に加盟している同校では防災教育の一環として、日本赤十字社千葉支部と連携して赤十字救急法の学習、防災やボランティア意識の向上に取り組んでいます。

この日は、1年にわたる防災教育のまとめの日です。特別講師となった紀香さんは、体育館に集まった全校生徒354人の前で、避難所での炊き出しやリラクゼーションに取り組んだ体験、仮設住宅での被災者との触れ合いなどについて写真を紹介しながら報告。

「自宅に帰れない、いつになったら帰れるかわからないという方々が、また大勢います。皆さんがそうになったら、どう思いますか」と、被災地を思い続けることの大切さを呼びかけました。

震災を忘れない 復興を支援したい

これに呼応して生徒会長の村上直樹くんは「被災地の様子はニュースでしか見ることができませんでしたが、実際の体験を聞いて多くのことが分かりました。もしもの場合にここで学んだことを活かしていきます」と述べました。

写真展は日本赤十字社の救護・復興支援活動や紀香さんの被災地訪問の様子を伝える写真などを通して、被災地や防災についてあらためて考えようと開かれたもので、昨年

に続いて2回目です。紀香さんはこの日、昨年11月に創立120周年を迎えた千葉支部の森田健作支部長(県知事)を表敬訪問するとともに、同支部義肢製作所で義足製作や模擬義足での歩行も体験しました。

常任理事会開催報告

平成25年3月14日、本社において平成24年度第11回の常任理事会が開催されました。

審議結果は左記のとおりです。
記
1 規則の改正について
(補正予算の範囲に関する常任理事会決定の一部改正)
2 理事会等に付議する事項について
(理事会等に付議する諸規程の一部改正、借入金金の借り換え及び不動産の処分にかかる取扱いについて、日本赤十字社本社組織

理事会開催報告

平成25年3月15日、全国社会福祉協議会会議室(新霞が関ビル)において平成24年度4回目の理事会が開催されました。

審議結果は左記のとおりです。
記
1 第81回代議員会に付議する事項について
(役員選出、平成25年度事業計画及び収支予算)
2 規則の改正について
(理事会等に付議する諸規程の一部改正、借入金金の借り換え及び不動産の処分にかかる取扱いについて、日本赤十字社本社組織規則の一部改正、日本赤十字社損害補償規則の一部改正)
3 資金の借入について
(岡山赤十字病院及び広島赤十字・原爆病院の増改築工事にかかる資金の借入)

第81回代議員会審議結果報告

平成25年3月15日、新霞が関ビル「全社協・灘尾ホール」において開催した第81回代議員会における審議結果は左記のとおりです。
平成25年4月1日
日本赤十字社

記
第1号議案 役員選出について
副社長1名、理事35名及び監事1名が次のとおり選出されました。
副社長 米倉 弘昌
理事 池上 清子、渡 文明、岩田 徳弥、牛場まり子、麻生 俊介、高橋 博美、遠藤栄次郎、小櫻 輝、後藤武一郎、田嶋 進、田中 正、酒井 靖恵、吉良 信一、新本富士雄

規則の一部改正、広島赤十字・原爆病院の増改築工事にかかる資金の借入
審議の結果、規則の改正については原案のとおり議決され、理事会に付議する事項については、原案のとおり本年3月15日開催の理事会に付議することが了承されました。
また、「もっくろスー計画」、予算の補正にかかる2月分の社長専決事項の決定状況について、それぞれ報告しました。

また、一般社団法人日本血液製剤機構の設立に伴う日本赤十字血液分画センターの資産の譲渡等にかかる最終報告、原子力災害対策及び核兵器廃絶にかかる赤十字の取組み、「もっくろスー」活動の取組み、東日本大震災義援金の受付状況及び寄付期間の延長、平成24年度「NHK海外たすけあい」募集実績及び昭憲皇太后基金特別募金の受付状況について、それぞれ報告しました。

また、常任理事会の理事の互選が行われ、池上清子、渡文明、三浦 宏、田嶋 進、中西一順、高井八良、十河 清、久保 長の各氏が選出されました。

吉岡 幸一、石川 道政、永井 啓武、武居 桂、辻本 昌司、八村 輝夫、中島 博、中山 光江、竹崎 克彦、上村 俊之、十河 清、田代 知代、岩元 恭一、比嘉 幹郎、久保 長、三浦 宏、山川 敏彦、落合 準子、稲葉 孝彦、平松 恵一、松村 隆、松村 隆

監事 池田 弘一
第2号議案 平成25年度事業計画について
第3号議案 平成25年度収支予算について
原案のとおり議決されました。

平成25年度の
実施事業が
決まりました

皆さまからお寄せいただいた 活動資金はこのように役立っています

一般 会計

3月に開催された代議員会において、平成25年度事業計画および平成25年度収支予算が審議され、以下の通り、平成25年度に実施する事業が決まりました。一般会計では、個人、法人の皆さまから頂く活動資金(社費と寄付金)を主な財源として事業を実施します。また、各国赤十字社などから寄せられた海外救援金を財源として、東日本大震災復興支援事業にも引き続き取り組みます。
なお、義援金は、手数料などを頂くことなく全額が被災都道県に設置された義援金配分委員会を通じて、被災された皆さまに届けられています。

●平成25年度に実施する主な事業についてご紹介します

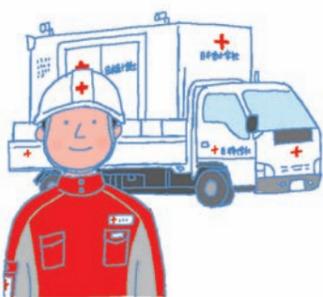
災害救護活動

27億円

災害時における医療救護活動、救援物資の配付などを通じて被災された方々を支援します。

【平成25年度の重点事項】

- 救護員などの継続的な人材の育成
- 大規模災害への対応能力の強化
- 大規模地震対応計画の検証および支部実行計画の策定



国際活動

40億円

世界各地で発生する紛争や自然災害により被災された方々への緊急救援、復興支援や中長期的な視点での開発協力事業を実施します。

【平成25年度の重点事項】

- 緊急救援、復興支援
- アジア、アフリカ地域を中心とした開発協力
- 核兵器問題などへの国際的な取り組み
- 国際活動に従事する人材の育成



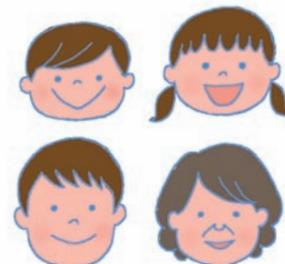
赤十字活動の普及・充実

70億円

赤十字活動に参加してくれる人を増やすための基盤整備を行います。

【平成25年度の重点事項】

- 赤十字ボランティア・青少年赤十字活動の推進
- 赤十字運動の普及と参加しただきやすい環境づくり



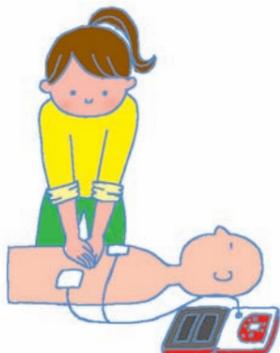
救急法など赤十字講習

12億円

救命率の向上などを目的として、赤十字講習事業を広くPRし、普及します。

【平成25年度の重点事項】

- 企業・団体とのタイアップによる講習の全国展開
- ボランティアによる地域への講習推進



地域の医療・保健活動

29億円

全国にある赤十字の病院・血液センター・福祉施設・看護学校・助産師学校が地域の人々に信頼される存在であり続けるために、職員・学生の人材育成および老朽化した施設の更新整備を行います。



東日本大震災復興支援*

85億円

各国赤十字社などを通じて寄せられた海外救援金を財源として、東日本大震災で被災された方々を引き続き支援します。

【平成25年度の重点事項】

- 生活再建支援・福祉サービス支援
 - 教育支援・医療支援・原子力事故対応
- *活動資金とは区分して管理しています。



特別 会計

医療施設、血液事業、社会福祉施設については、一般会計とは別に、それぞれの特別会計の中で運営しています。特別会計についても、3月に開催された代議員会において平成25年度事業計画および平成25年度収支予算が審議され、以下の通り、平成25年度に実施する事業が決まりました。医療施設は主に診療収入、血液事業は医療機関への血液製剤の供給による収入、社会福祉施設は介護保険収入などを財源として運営しています。

●医療、血液、福祉の分野も一層の充実を図ります

医療施設特別会計

9729億円

赤十字の特色を活かした
医療の提供のために

【平成25年度の重点事項】

- 中核医療機関としての地域医療への貢献
- 安全・安心な医療の提供
- 赤十字病院経営の健全化



血液事業特別会計

1714億円

血液事業の推進
若い世代の献血促進のために

【平成25年度の重点事項】

- 若年層献血者の確保
- 輸血用血液製剤の供給体制の充実
- 血液製剤の安全性の向上



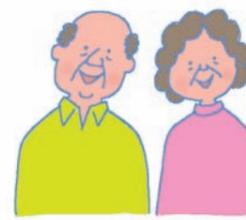
社会福祉施設特別会計

143億円

地域に根ざした施設運営
福祉サービスの提供のために

【平成25年度の重点事項】

- 地域との連携による事業
- ボランティアの参画による施設運営
- 地域のニーズに応じた講習、地域防災の実施



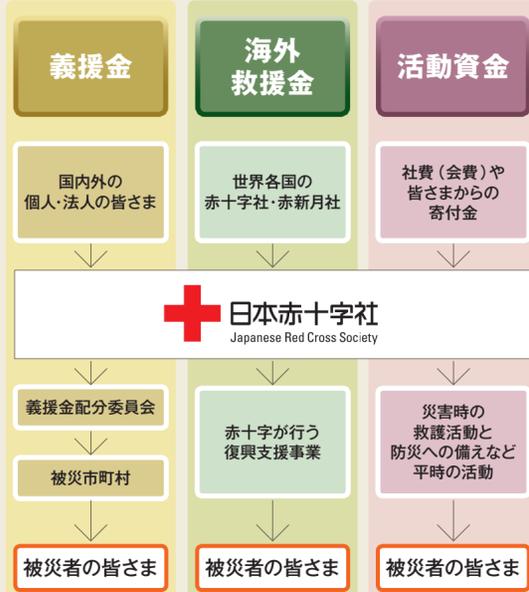
予算内容の詳細については、日赤のホームページ(<http://www.jrc.or.jp>)、もしくは本社・支部でご覧いただけます。

3つの柱で被災地を支援

支えているのは皆さんの力です

医療救護班による救護活動を皮切りに、赤十字奉仕団などによる支援活動、海外救援金を活用した復興支援事業、そして義援金の受付。日本赤十字社は発災から今日まで、切れ目のない支援を被災地に届けています。こうした支援は、日本と世界の一人ひとりの気持ちにより支えられています。

義援金、海外救援金、活動資金の流れ



「東日本大震災の被災者を支援したい」と国内外から寄せられた「義援金」は3649億円(2月28日現在)。義援金は、手数料などを頂くことなく「全額」が被災地県に設置された義援金配分委員会を通じて、被災された皆さまに届けられています。

世界の人々の善意が込められた「海外救援金」を財源に、日本は復興支援事業に取り組んでいます。仮設住宅居住者への支援のほか、高齢者・障がい者支援、教育支援、医療インフラの復興・整備、原発事故被災者への対応など幅広い分野に活用されています。

医療救護班の派遣、救護物資の備蓄と配分など日赤のさまざまな活動は、日頃より日赤を支援して下さる皆さまから寄せられる「活動資金」により展開しています。義援金受付のコールセンター設置や受領証発行など事務手続きの費用にも充当されています。

2014年3月31日まで、義援金の受付を延長いたします。
引き続き皆さまのご支援をよろしく申し上げます。

- 東日本大震災義援金あて先
【通常払込み(ゆうちょ銀行・郵便局)】
口座記入番号 00140-8-507
口座加入者名 日本赤十字社 東日本大震災義援金
※ゆうちょ銀行・郵便局の貯金窓口において通常払込みをされた場合、料金(手数料)は免除されます。義援金は各金融機関、クレジットカード、コンビニエンスストア、Pay-easyなどにより受付しています。詳しくは下記お問い合わせ先、または日本赤十字社ホームページ(http://www.jrc.or.jp)をご覧ください。
 - 義援金の受付・送金状況
【受付】3,649億円(2013年2月28日現在) ※中央共同募金会受付分を含む
【送金】3,603億円/被災された15都道府県(2013年2月28日現在)
【配付】3,393億円/被災された方(2013年1月31日現在)
- 日本赤十字社 東日本大震災義援金担当
フリーダイヤル: 0120-00-0122
(受付時間/平日9:00~19:00、土・日・祝日9:00~17:30) Eメール: info@jrc.or.jp

東日本大震災 被災地復興支援事業

被災者とともに復興・生活再建へ一歩ずつ

東日本大震災から2年。受けた被害や置かれている環境により、生活再建への歩みは異なっています。一歩を踏み出すことが難しい被災者も少なくありません。そうした一人ひとりに寄り添いながら、日本赤十字社は復興への歩みをこれからも応援していきます。



再開されて安心。毎日楽しく通っています！

伊藤尚人くん(5歳)の母、順子さん(福島県いわき市)

末っ子の尚人が、今年再開した「楢葉町立あおぞらこども園」に通い始めました。バスで40分もかかりますが、毎日楽しそうに通っています。友達と遊んだことを元気に話してくれるのがうれしいですね。

震災後は神奈川県相模原市に一家5人で避難していました。でも、楢葉町の小中学校がいわき市内で再開されると知り、長男と次男をそこに通わせるため、私たちが昨年4月、いわき市に越してきたんです。現在は、市内の仮設住宅で生活しています。

避難先では保育所を探すこともできませんでしたから、尚人は同じ年齢の友達と遊ぶ機会もなく、かわいそうだったと思います。ようやくこども園で集団生活が体験できるようになり、ほっとしているところです。

私も主人も震災で仕事を失いましたが、子どもたち優先での生活を考えています。「楢葉の学校に通いたい」というのが子どもたちの希望。もし学校が楢葉町に戻るのなら、私たちが楢葉に帰り、頑張っていくつもりです。



「スクールバスに毎日喜んで乗り込んでいきます」と伊藤さん親子

あおぞらこども園
幼稚園、保育園、子育て支援センターの機能を兼ね備える「あおぞらこども園」。いわき明星大学の敷地内に昨年12月、小中学校の校舎と合わせて仮設園舎が建設されました。日赤は園舎のリース費用と備品設備、小中学校のスクールバス、教材用備品の整備支援を行いました。



自慢の海苔です。みんなに食べてほしい

海苔養殖業 南部武彦さん(宮城県石巻市)

親 父も同じ仕事。小さい頃から海苔と一緒に育ってきました。だから海苔の養殖を再開できて、その匂いをかけた時は感動しました。本当にうれしかった。戻ってくれた従業員にも感謝ですね。

正直、震災後はもう無理だと思っていました。家も工場もすべて津波に流され、人生終わったと。震災前の借金もありましたし、どう生計を立てたらいいのか……。でも、海苔養殖の仲間から「再開しよう」と励まされ、国や県からの補助金が利用できることにもなり、諦めないでもう一度挑戦しようと決心できたんです。

去年秋から収穫が再開できましたが、仲間の工場を借りての生産です。壊れた港の護岸工事はまだこれからで、1カ月ごとに荷揚げ場が変更されている状態です。私の場合、ようやく震災前の60%にまで戻せたという感じでしょうか。

来シーズンには自前の工場での生産も再開できます。以前よりもっと良い海苔、おいしい海苔を作っていきます。石巻の海苔を全国、世界の人に食べてもらいたいです。

クウェートからの海外救援金を活用
震災前20以上の業者が営業していた宮城県石巻市の海苔養殖業。震災後は16にまで減少してしまいました。クウェートから寄せられた海外救援金を活用し、石巻市漁業協同組合に対して860万円を支援。16の海苔業者が共同で使用する海苔の種入費用に充てられました。



助け合い、支え合いながら、頑張っています

仮設住宅に暮らす 熊谷洋子さん(岩手県大船渡市)

壊れた蛍光灯などを片づけようと家の中にいた時、津波が押し寄せてきたんです。2階に駆け上がりましたが、背中をつかむように水は追いかけてきて。その日が67歳の誕生日だったんですよ。

仮設住宅の生活にはようやく慣れてきましたが、最初は大変でした。音が筒抜けですから、周りに気を遣いましたね。それに、努力して外に出かけないと、閉じこもりがちになってしまいます。運動不足でだけじゃなくて、心も疲れてしまうんです。日赤さんのノルディックウォーキングにも7回参加しました。参加の輪が広がると良いですね。

ここでの生活には、入居者同士、助け合ったりすることが大切です。そうした意味では、仮設住宅には良い面もあるんですよ。でも、ずっとここで生活するわけにはいきません。狭いので、子どもや孫を呼ぶことさえできませんから。家族、親戚がまたそろって集まれるようになるまで、私も頑張らなきゃいけないですね。



「足の運びが軽くなるし、身体が楽になるんです」

ノルディックウォーキング
2本のポールを持って歩くフィンランド生まれの健康スポーツがノルディックウォーキング。日赤は健康生活支援の一環として、平成23年5月から赤十字ボランティアを中心にノルディックウォーキングの会を開催しています。これまで117回実施され、参加者は1178人を超えました。

AREA NEWS

JRCメンバーが国際交流 国際理解と親善の集い



青少年赤十字(JRC)の高校生メンバーが外国文化などを学ぶ「国際理解・親善のつどい」が3月9日、佐野常民記念館(佐賀市)で開催されました。



インドネシアの伝統打楽器「アングロン」を体験。AKB48の曲を合奏しました

つどいは、JRCが実践目標の一つに掲げる「国際理解・親善」のための研修。県内8つの高校から集まった40人の生徒は、インドネシア、韓国、バングラデシュ出身者から、それぞれの国の教育制度や生活、伝統文化などについて学びました。また、福岡赤十字病院の柳瀬奈保看護師が赤十字の国際活動について講義。参加メンバーは「今回は、初めて目にする、耳にすることばかりで、衝撃を受けた」「私は何をすれば世の中の役に立つのか、考えさせられた」など、グローバルな視点を開眼した様子でした。

2度の水害乗り越え60年 児童らが紡ぐ赤十字精神



朝倉市立蟠城小学校が2月26日、青少年赤十字(JRC)加盟60周年の記念式典を開きました。周辺は昭和28年6月の水害で大きな被害があり、その際イタリア赤十字社が救護所を開設するなど、国内外から多くの支援を受けました。同小学校はこの支援に感謝して、翌年JRCに加盟。以来、水害があった6月26日には「水害記念日学習会」、JRCに加盟した2月26日には「青少年赤十字加盟記念学習会」を毎年開催しています。



青少年赤十字の歌「空は世界へ」を児童と参加者全員で合唱しました

当日の活動発表会ではボランティア活動や募金活動などを発表。記念冊子には昨年7月の九州北部豪雨災害の際に子どもたちが経験したことや感じたことなどが書かれており、未来の子どもたちにその体験が引き継がれます。

患者さんの心を癒やす 写真展を院内で開催



沖縄赤十字病院の患者さんや職員などでつくる写真クラブ「チーム写人～syarin～」が2月4～15日、院内で写真展「結いするつぼみ」を開き、それぞれの自信作を展示しました。



チーム写人と緩和ケア認定看護師の金城恵さんの共同作品

患者さんや来院者に心を癒やしてもらおうと開催したものの。写真を見た人からは「病院内での写真展で元気が出た」「心が温まり、思わず涙がこぼれてしまいそう」などの感想が寄せられ、定期的な開催を望む声も多く聞かれました。会場内ではポストカードも販売され、売上金が県支部に活動資金として寄付されました。写真を展示したメンバーは「カードを購入していただいた方々のおかげで、社会貢献ができました」と語っていました。

ひな人形にまごころ込め 患者さんらに色紙の贈り物



大分赤十字病院は3月1日、入院患者の皆さんと訪問看護ステーションを利用されている方々の336人全員に「おひな様の色紙」を贈りました。



「おひな様の色紙」は多くの患者さんに笑顔をもたらします

この行事は、患者さんの一日も早い回復を願って昭和58年に始められたもの。今年で30年を迎えました。色紙には、職員が一つひとつ手で折った和紙のひな人形が飾られ、白鷺書道会のボランティアの皆さんによる「書」が描かれています。

2月27日に出産したばかりで同院に入院中の女性は「1年に1回のこの機会に出産、入院して、色紙をいただいたことを大変うれしく思います。30年続いているのは本当にすごいですね」と感想を述べました。

忍者も献血も助け合い 忍たま乱太郎がPR



千葉県赤十字血液センターは2月16日、イオンモール八千代緑が丘で献血キャンペーンイベントを開催。イベントには人気アニメ「忍たま乱太郎」のキャラクターも登場し、防災をテーマにしたキャラクターショーや、献血クイズ大会で会場を盛り上げました。



けんけつちゃん和乱太郎たちはすっかり仲良しに

会場に集まった子どもたちは、テレビでおなじみのアニメキャラクターの登場に大興奮。ショーを楽しみながら、乱太郎たちと一緒に災害への備えや、助け合い、思いやりについて楽しく学びました。また、献血キャラクターの「けんけつちゃん」に関するクイズを通じて、献血についても勉強。イベントに合わせて同ショッピングセンター内で実施された献血には、16、17日の2日間で164人の方々に協力いただきました。

スタジオは高校の放送室 献血ラジオ番組を発信



献血とラジオを知ってもらいたい—そんな狙いから血液センターと地元FM局がコラボ。愛媛県立野村高等学校(西予市)で2月27日、献血バスによる校内献血とFM愛媛の番組「カモ☆れいでい★Night!」の収録が同時に行われました。



収録番組は後日、2日間に分けて放送されました

仮設スタジオは学校の放送室。同校放送委員が参加して収録が進められ、その様子は校内放送としてライブ中継されました。番組内では「献血の大切さ」「ラジオの魅力」が熱く語られ、パーソナリティーの関千里さんは「若い人たちの献血が減っている」「もっと献血してほしい」と生徒、リスナーに呼びかけました。校内献血を終えた生徒からは「今日で4回目です。自分の血が役に立つならどんどん続けていきたい」と頼もしい発言が出ました。

70歳の誕生日控え 700回達成し献血卒業



徳島県在住の佐藤正明さんが、2月14日に県内での献血最高回数である700回目の献血を達成。同月18日に70歳の誕生日を迎え、献血可能年齢の「16～69歳」を超えるため、今回で献血「卒業」となりました。



「卒業」献血には、ご家族と一緒に血液センターを訪れ、目標の700回を達成

元教諭の佐藤さんが献血を始めたのは26歳の時。知人の手術がきっかけでした。その後は、毎年機会を見つけては献血し、昭和61年に成分献血が導入されてからは、月に2回のペースで成分献血を続けてきました。昭和49年には勤務していた県立貞光工業高等学校(つるぎ町)の教職員による献血グループを結成するなど、生徒らに献血の重要性を訴え続け、同校を県内の献血推進校に育てました。

国際協力イベントで 「赤十字マークとは?」



西日本最大の国際協力イベント「ワン・ワールド・フェスティバル」が2月2～3日、大阪市内で開催され、大阪府支部は赤十字の国際活動を紹介するブースの出展や、赤十字マークの意味を伝える講演会などを行いました。



支部職員が来場者に赤十字マークについて説明しました

この催しは国際協力の大切さを広く市民に知ってもらおうと、1993年から開催されており、今年で20回目。142のNGOや国際機関、政府機関などが参加し、約1万6000人が来場しました。赤十字ブースでは赤十字の国際活動を伝える動画を放映したり、ウガンダの病院支援や災害被災者支援などを紹介するパネルを展示。来場者からは「赤十字マークは病院の印ではなかったのですね」「本当の意味が分かりました」などの声が聞かれました。

スポーツとコラボ

J1リーグ開幕戦
グランパスくんがAEDを実演!

愛知県

名古屋グランパス
対ジュビロ磐田の
サッカーJ1リーグ
開幕戦が行われた
豊田スタジアム(豊
田市)で3月2日、
愛知県支部は試合
前のイベントとして
日本赤十字社の取り
組みをPRする活動
を展開しました。



キックオフ前には、場内のオーロラビジョンで日赤のCMを放映。AEDと心肺蘇生の手順を掲載したチラシも配布しました

赤十字親善大使に就任して3年目を迎える名古屋グランパスの公式マスコット「グランパスくん」がAED(自動体外式除細動器)に挑戦。サポーターと一緒に救急法を学びました。

親善大使の威厳をかけて挑んだグランパスくんですが、手の代わりにヒシを使った胸骨圧迫などに悪戦苦闘する姿に一同、大爆笑。「コミカルな動きが印象的で、心肺蘇生の方法が脳裏に焼き付きました!」など心に残る「名演」が好評を博しました。

心からの寄付に感謝!

千葉銀行寄贈の献血バス「ひまわり号」が活躍 千葉県

千葉県支部で3月6日、地元の千葉銀行から寄贈された移動採血車(献血バス)「ひまわり号」の贈呈式が行われ、式の後に実施された同行行員対象の職域献血で早速活躍しました。今後県内の献血会場を巡ります。



千葉銀行の市原専務(左)と安田副支部長

3月31日に創立70周年を迎えた同行は「ひと・環境・産業の未来を育む」をコンセプトに社会貢献活動を実施しています。このうち「ひとの未来を育む」ことと、赤十字の人道活動が一致したことが今回の贈呈に結びつきました。贈呈式では同行の市原克巳取締役専務執行役員が「移動採血車を献血者の受け入れ強化に活用して、県内の献血事業が充実されることを願っています」とあいさつし、安田敬一副支部長にゴールデンキーを手渡しました。

訂正とお詫び

赤十字NEWS 2月号(第873号 平成25年2月1日発行)7頁に掲載の記事に誤りがありましたので、以下により訂正させていただきます。

関係者はじめ皆さまにお詫び申し上げます。

誤 「大和塗料より寄付 救護用ベッド40台に充当」

正 「雄飛会(塗料販売会社の会)より寄付 救護用ベッド40台に充当」

プレゼント

人工呼吸時の感染予防に効果的な人工呼吸用携帯マスク。日赤サービスで好評発売中のケース入り「キューマスク」(¥430)を3名様にプレゼントします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。



- ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
⑤赤十字NEWS 4月号を手にされた場所(例/献血ルーム)
⑥赤十字NEWSへのご意見・ご感想や、扱ってほしいテーマなど

応募先 ● 郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 企画広報室 赤十字NEWS 4月号プレゼント係
FAX/03-3432-5507
メール/ koho@jrc.or.jp (件名「赤十字NEWS 4月号プレゼント係」)

応募締切 ● 4月30日(火)必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

AKB48

メールマガジンの登録受付中!

日本赤十字社のメールマガジンでは、日赤のさまざまな活動や都道府県支部ごとのイベント案内、お役立ち情報などをお届けします。また、オフィシャルメッセージであるAKB48の特設サイトでは、スペシャルコンテンツを随時更新。ぜひご登録ください。今すぐ http://www.jrc-akb48.jp



facebookに日赤公式ページができました。東日本大震災での取り組みをはじめ、とっさの手当や献血のこと、国内外の活動現場の写真など赤十字ならではの最新情報を発信していますので、ぜひご覧ください!
http://www.facebook.com/japaneseredcross

驚きいっぱいの点字世界
小学校で奉仕団が点訳教室

秋田県

秋田市立川添小学校で2月4日、秋田県点訳赤十字奉仕団と秋田県視覚障害者福祉協会の5人を講師とする点訳体験の教室が行われました。

点訳体験教室は、4年生の総合的な学習の時間の中で企画され、児童・教職員合わせて21人が参加しました。シャンプー容器などの実物を用いて、身近な製品にも点字が利用されていることを学んだ児童は「こんなところにも点字が使われているんだ!」とびっくりした様子。点字を読む体験では、点字の基本的なルールを「点字しりとり」で勉強しました。全盲の奉仕団員の点字を読むスピードに「すごい!」「早い!」と驚きの声がかかる場面も。点字の書き(打ち)方体験では、「点筆」を使った名刺作りに挑戦しました。



点字は指先で読み取ります。何が書かれているか分かったかな?

赤十字救急法ミニ講習会
楽しくAED体験

兵庫県

兵庫県支部は2月23日、イオン明石ショッピングセンターで赤十字救急法のミニ講習会「知っていれば安心! 心肺蘇生とAEDの使い方」を開催しました。



心肺蘇生に使う人形に子どもたちは興味津々でした

買い物ついでに立ち寄った方やホームページを見て来た方など約60人が参加。親子連れでの参加も多く、「ちゃんと覚えて、お母さんのこと助けてよ」といった会話も。子どもたちはお父さんやお母さんと一緒に指導員の話に聞き入っていました。元看護師の女性は「やっぱり普段から訓練しておいた方がいいですね」と参加の理由を語りました。

会場では、東日本大震災の救援・支援活動を紹介したパネル展示や震災に関するビデオ上映など、赤十字の災害救護活動のPRも行われました。

目からウロコのベビー整体 乳児院で院内研修

茨城県

茨城県支部乳児院で2月27日、「べびい整体入門」と題した院内研修が行われました。講師はM&M整体サロンの目黒美千子助産師。だっこや授乳の仕方、赤ちゃんが気持ち良くなる寝かせ方、発達を促す関わり方などを学習しました。



だっこなど基本に立ち返った研修で保育のレベルアップを図りました

「赤ちゃんはお母さんのおなかの中で丸くなった姿勢で過ごしてきたので、お母さんのおなかの中にいた姿勢に近い格好で寝かせてあげるといいですよ」などの講師の話に、参加した職員からは「真っすぐに抱いたり、寝かせることが普通だと思っていたので、勉強になった」「自分の知らなかった世界で驚いた」などの感想が。研修後、「べびい整体」は早速業務に取り入れられるなど、職員の保育に対する意識の向上につながっています。

県内全海保と相互協定
海上災害時の協力を確認

広島県

広島県支部は2月21日、呉海上保安部および尾道海上保安部と災害時の相互協力協定を締結しました。昨年11月には広島海上保安部と同様の協定を再締結しており、これにより、広島県沿岸部全海域における迅速な救護活動が可能となりました。



福谷幸資呉海上保安部長(左)と桂木事務局長

協定では海上災害が発生した場合、県支部は県内の赤十字病院から医師・看護師ら救護班を派遣。各海上保安部はこれら救護班の搬送や救援物資の輸送を行い、両者が協力して救助・救護活動を実施することなどが取り決められています。締結式であいさつをした県支部の桂木弘二事務局長は「海上保安部との連携を密にし、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、安全を守るという赤十字の使命を果たしていきたい」と抱負を語りました。

WORLD NEWS

台湾赤十字組織

岩手県山田町でエールを送る 園児たちに音楽のプレゼント

東日本大震災で半壊した岩手県山田町の大沢保育園。再建された園舎の落成式が3月21日に行われました。再建を支援した台湾赤十字組織(台湾赤)は、落成式の中でミニ・コンサートを開催。心のこもった美しい音楽で復興への歩みを進める同町の人々を励ました。

高台に位置する同保育園。園児や職員は全員無事でしたが、津波により床上まで水に浸かるなどの大きな被害を受けました。復興が徐々に進んでいく中、働く親たちから子どもを安心して託せる保育園の早急な整備が求められるようになりました。

山田町からの要請を受けて日本赤十字社



園舎の建設には、ドイツのラインラント・プファルツ州政府からの支援(約3630万円)も含まれています

は、台湾赤からの海外救援金約1億5000万円を充て、同園の再建を支援しました。同園では、震災前に45人いた園児も、現在は31人に減少。今回の園舎再建が行われている間は、同地区のコミュニティーセンターを間借りして運営していました。この春、11人が卒園し、1人の新園児を迎えます。

落成式では山田町の佐藤信逸町長が「山田町には約7000世帯が住んでおり、そのうちの3000世帯が震災で全半壊した。大沢保育園は、海外からの支援のおかげで比較的早く再建することができ、誇りに思う」と海外の人々への感謝を表明。震災後の来日は3回目という台湾赤の李鴻鈞理事は「被災地の様子はだいぶ変わってきたが、復興までにはまだまだ時間がかかると思う。皆さまの苦労は計り知れない。台湾



台湾を拠点に第一線で活躍するアジア・パシフィック弦楽四重奏団による演奏が目の前で披露され、園児たちは熱心に聞き入りました

赤に集まった資金は台湾の人たちの気持ち。日本と台湾の絆はもっと強くなる。観光客をいっぱい連れてきます。おいしい幸、きれいな海が山田町にはあります。一緒に頑張りましょう」と、日本語で山田町の人々にエールを送りました。

落成式では、園児たちによる踊りと歌が披露され、式を盛り上げました。また、台湾赤の招待で来日したアジア・パシフィック弦楽四重奏団もハイドンの楽曲と映画「魔女の宅急便」のテーマソングを演奏し、新園舎に美しい音色を響かせました。

70億円の巨額海外救援金

東日本大震災に寄せられた台湾赤からの総支援額は約70億円。今回の大沢保育園のほか、同じ山田町の日台きずな保育園(旧わかき保育園)と児童クラブ2カ所、災害復興公営住宅(岩手県大槌町)、市民福祉センター(宮城県気仙沼市)、公立病院の建設(宮城県南三陸町)、高齢者共同住宅(福島県新地町)、災害公営住宅(福島県相馬市)の建設支援などに充てられています。

臨床心理技術者の会

「希望へつなげる支援が不可欠」 IFRC心理社会的支援センター所長が講演

「心理社会的支援で大切なのは、被災者の希望へとつなげていくこと。希望がなければ、人々は生きていく意欲を失ってしまうからです」。国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)心理社会的支援センターのナナ・ヴィーデマン所長が3月17日、日本赤十字社本社(東京・港区)で開催された「全国赤十字臨床心理技術者の会」(齋藤和樹会長・日本赤十字秋田看護大学)の20周年記念講演会・シンポジウムで講演。災害・紛争時の心理社会的支援の役割や国際的なガイドラインなどについて報告しました。

IFRCの心理社会的支援センターは1993年の設立。各国赤十字社に対して、心理社会的支援に関する助言や情報共有、指導員の育成などを行っています。スマトラ沖地震津波災害(2004年)などの大災害時には専門スタッフを派遣。現地の赤

十字社とともに被災者の心理社会的支援に当たってきました。

こうしたさまざまな経験を踏まえてヴィーデマン氏は「人々の精神状態には、心理的要因と社会的要因の双方が影響している」という点を指摘。「したがって被災者支援

は、個々の被災者に向き合うことと同時に、社会全体に回復力を付けていくことが大切。コミュニティーの機能回復のうえに、人々は自らの将来を描くことができるからです」と強調しました。

ハイチではボランティアに「こころの救急法」研修

災害支援の実施に際しては、これまでの経験に基づき国際的なガイドラインが作成されています。災害の全体状況を把握する段階では「安心感」「穏やかさ」「連帯感」などを持って行動し、被災者の「希望」へとつなげていくことが求められます。そのうえで、「正しい情報提供」「人権と公平性の確保」「子どもたちの保護」「スタッフ・ボランティアへのサポート」などの原則に立った活動を展開していきます。

これらの原則について説明したヴィーデ



災害・紛争時における心理社会的支援の第一人者として国際的に活躍するナナ・ヴィーデマン所長

マン氏は、ハイチ大震災(2010年)の際の心理社会的支援でも、赤十字ボランティアに対して「こころの救急法(PFA)*」の研修が実施されたことを紹介。「まず、研修を受けたボランティアが地域活動を展開し、次に学校の再建など子どもたちへの支援、自助・共助の取り組みを通じたコミュニティー回復を図ったのです」と報告しました。

*PFA 大規模災害・事故の被災者をサポートするためのこころの救急法(Psychological First Aid)。①言葉に耳を傾ける ②寄り添う ③感情を受け入れる ④広範囲にわたる現実的なケアの提供という4つの基本原則が盛り込まれています。

知ってほしい! 国際人道法

4. 文化財攻撃は人類全体への攻撃

古代文明の交流地点だったシリアには、6つの世界遺産がありますが、そのうちの5つが内戦により被害を受けています。ユネスコのイリナ・ボコヴァ事務局長は「シリアは『武力紛争時の文化財の保護に関する条約』の締約国。文化財保全の義務があります」と訴えます。

文化遺産は人々のアイデンティティーと不可分です。そうした意味で、紛争時の文化財保護を掲げる同条約も国際人道法の一つに数えられています。

条約のきっかけは、第2次世界大戦時のナチスによる文

化遺産破壊でした。遺跡や宗教的建築物、美術・博物館などが次々に破壊されたのです。文化財は、破壊されてしまえば二度と元に戻すことができません。さらにその破壊は人々のアイデンティティーをも傷付けてしまいます。

こうした経験を経て、1954年に条約は採択。「文化財は人類すべての財産」という原則に立ち、その前文で「文化財への攻撃は、全人類の文化遺産への攻撃」であることをうたっています。1999年には、内戦への適用などより厳しいルールを制定。日本は2007年に批准しています。

全国赤十字臨床心理技術者の会

赤十字関連施設に勤務する臨床心理士などにより1993年に設立。会員数は現在76人。発足当時、臨床心理士の仕事は、精神科における精神療法や心理検査などが主でしたが、阪神淡路大震災などの大規模災害や自殺者増などの社会的変化を受け、その取り扱い臨床領域が拡大。医療スタッフのメンタルヘルスを支える役割なども担っています。